

山ニ留ル、彼彦山ニ飛來ラセ玉フ時、其形八角ノ水精ニテ、御長三尺餘ニ見ヘ玉フト云傳フ。

〔豊前國志二
田川郡〕英彦山事記

抑是なる彦山と申は、西國第一の大山にして、豊前豊後筑前の三が國に蟠り、朝爾夕雲立起りて、天上爾聳へ、されば山上高千穂の嶺爾は、二神降臨の地、なほ次第々々爾高神等の止り賜ふ嶺にして、世爾隱れなき名山なり。○中略

修驗行の始は、人皇四十代、文武天皇慶雲二年、役行者此山に登り、神勅を請、金剛胎藏兩界三季の峯を踏開き、是より修驗行法傳燈相續し、今爾至て一千百餘年解る事なし。

行者の開峯、日本六峯の内、日子山第三の峯也、第一ハ紀伊の大峯、第二ハ大和の金の峯、第三ハ鎮西日子の峯、第四ハ讃岐の石槌山、第五ハ出羽の羽黒山、第六ハ攝津の箕面山、是を行者の開給ふ鎮六峯とす、大寶より和銅に至り、異國本朝行返の間、神仙小角此山爾峯を踏事三十六度也と云々、

〔謠曲〕花月

次第風にまかするうき雲のく泊りはいづく成らん、ヲキ詞是は筑紫彦山の麓に住居する僧にて候、我俗にて候し時、子を一人もちて候を、七歳と申し春の比、いづく共なく失ひて候程に、是を出離の縁と思ひ、加様の姿と成て諸國を修行仕候。略中シテ 扱も我筑紫彦山にのぼり、七つの年天狗に上同とられてゆきし山々を、思ひやる社かなしけれ。略下

〔豊後國志六
直入郡〕嫗嶽 在入田郷南、一作鶴羽、又名祖母蓋山、配祀豐玉姫命、以神武帝爲皇祖母故也、其山崔嵬峻極、峙立雲表、上有小石祠、土俗所謂嫗嶽上宮是也、事辨于神原山下、其東南崖下、名御花園、有一怪石、兀然突立、奇樹異草、繁植鬱茂、蓋仙棲之境也、其足跨于豐日肥三國、三分之則豐居其二、衆山如兒孫環列、腰膝肥日二州諸峻蹲其西南、福原倉木鳥嶽尾平奥嶽拱其東南、爭嶮競秀、擅美于大野郡、觀國峯、離山、美女嶽、神原山、侯其東北、嵐嶺聳肩其西、由留木高城、飴山接續映帶、實以豐之鎮護也、